

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスLiebemaまはら				公表日		2026年 3月 13日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		広い活動スペースを活かし、プログラムに合わせて机やパーテーションを移動させ、十分な広さを確保しています。	今後も定員に応じ、のびのびと活動できる空間調整に努めます。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5		人員基準に基づき、お子様の人数や活動内容に応じて基準以上の増員を行い、手厚い支援を心掛けています。	引き続き適切な人員配置を行い、安全な支援体制を維持します。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5		パーテーションを使用して「静」と「動」のエリアを明確に仕切り、安全に配慮した構造化を行っています。段差等にはイラスト等で注意喚起しています。				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5		毎日の清掃、玩具の消毒、換気扇の活用により、清潔な環境を維持しています。	季節ごとの装飾などを取り入れ、よりリラックスして過ごせる空間作りを工夫します。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5		学習に集中が必要な際や、落ち着きが必要な場合に利用できる学習室を設置しています。また、お子様の慎重に合わせた机や椅子の設置を行っております。	集中力が持続しにくいお子様が、より自発的に学習部屋を選択できるような環境設定を進めます。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		会議等で目標共有と振り返りを行い、広く職員が改善案を出し合っています。	会議の効率化を図り、より具体的な支援技術の向上に繋がる検討時間を増やします。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートを実施し、頂いたご意見を職員間で共有して改善に繋げています。	結果や改善内容については、HP等で速やかに公表して参ります。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		朝礼やLINEWORKSを活用し、日々の気づきや意見を即座に共有できる体制を整えています。	意見交換を活性化し、より質の高い支援に反映させていきます。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		今後は外部機関による第三者評価の受審についても検討して参ります			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		eラーニングや法人内研修を活用し、全職員が資質向上を図れる環境を整えています。	研修で得た知見を内部勉強会で共有し、組織全体の支援力底上げを図ります。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ガイドラインに基づいた支援プログラムを作成し、保護者様に公開しています。また、活動内容を5領域のどこに該当するかを明確に示しています。また、絵や画像を用いて活動内容を視覚的に分かりやすく提示し、イメージしやすいようにしています。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		面談や日々の観察を通じ、保護者様とお子様のニーズを客観的に分析して計画を作成しています。	より高精度なアセスメントが行えるよう、ツールの活用を深めます。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児発管だけでなく、支援に携わる全職員で課題を共有し、最善の利益を考慮して検討しています。	多角的な視点から、より個々に適した支援内容を設定できるよう努めます			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		作成した計画を全職員で共有・把握し、計画に基づいた専門的な支援を実施しています。	必要に応じて計画を適宜見直し、常にお子様の現状に合った支援を行います。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたツールや日々の細かな行動観察記録を併用し、適応行動を把握しています。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの各項目(本人・家族・地域支援等)を網羅し、具体的な活動内容を設定しています。	お子様の成長段階に合わせ、より具体的に効果的な目標設定を行います。			

の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		担当者を決めつつ、スタッフ全員で意見を出し合い、多様なプログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事や外部講師、お子様のリクエストを取り入れ、マンネリ化しないよう工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		広いスペースでの集団活動と、学習部屋での個別活動を、計画に基づき適切に組み合わせています。	集団が苦手なお子様でも、少しずつ参加の幅を広げられるようなスモールステップの支援を強化します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝礼でその日の役割分担、お子様の状態、支援内容を確実に共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	帰りの送迎後には児童の様子や共有やLINEWORKSを用い、その日の振り返りや気づきを即座に共有・蓄積しています。	振り返りで出た課題を翌日の支援へ迅速に反映させる体制を強化します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		HUGシステム等を活用し、一人ひとりの様子を詳細に記録して支援の検証に役立てています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを通じ、計画の見直しの必要性を全職員で判断しています。	目標達成が困難な場合は原因を深く分析し、アプローチ方法を柔軟に変更します
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	5		サービス担当者会議等に、お子様の状況を熟知した担当職員が参加しています。	会議前に全職員で情報を整理し、一貫性のある情報提示に努めます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	保育所や学校等と支援方法を共有し、一貫した支援が行われるよう連携しています。	送迎時のやり取りだけでなく、書面や電話等での定期的な情報交換体制を強化します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		並行利用先や幼稚園等と送迎時等に情報共有を行い、相互理解を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		小学校等への情報提供や、保育所等訪問支援を利用したスムーズな就学移行をサポートしています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2		より積極的な連携機会を設け、専門的なスーパーバイズの導入を検討します。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	グループ内イベントや地域の行事への参加を通じ、他児との活動機会を設けています。	グループ外の地域住民とも交流できる行事の開催や参加を検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時、連絡帳、LINE等を活用し、日々の発達状況を細かくお伝えしています。	良い変化だけでなく、困りごとも含めてオープンに話し合える信頼関係をより深めます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	相談対応に加え、親子参加イベント等を通じて対応方法の共有を行っています。	口頭での助言や情報提供は行っているが、体系的なプログラムとしては実施していないため、今後検討し体制を整えていきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に重要事項や支援プログラム、費用等について丁寧な説明を徹底しています。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談や日々の連絡ツールを通じ、保護者様やお子様の意向を随時確認しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		計画書の内容を口頭および書面で丁寧に説明し、ご同意を頂いた上で支援しています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		随時、悩み相談に応じ、必要に応じて個別に面談の場を設けて支援しています。	定期的な面談日の設定など、より相談しやすい体制の構築に努めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	親子活動やイベントを通じ、保護者様同士が情報交換できる場を提供しています。	交流機会がさらに増えるよう、新たな企画やコミュニティ作りを定期的に開催できるよう検討します。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談窓口を周知し、要望や申入れにはその日のうちに迅速・適切に対応しています。	些細なことでも話しやすい雰囲気作りと、職員間での共有を徹底します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		SNSやHUG、通信の発行により、活動の様子や予定を分かりやすく発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		写真掲載の同意取得、記録のシュレッダー処理、デジタルデータのパスワード管理を徹底しています。	外部持ち出し時のルールを再確認し、情報漏洩リスクをゼロに抑えます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		絵カード等の視覚的ツールや、必要に応じた伝達方法の工夫により配慮しています。	お子様の成長や特性に合わせ、さらにきめ細やかな配慮を継続します。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	地域の行事参加や、住民を招くイベントの検討など、地域連携を意識しています。	イベント等で地域住民と交流を持てる機会を設けられるよう検討していきます。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事故・防犯・感染症等のマニュアルを完備し、HUG等で職員・保護者に周知しています。	常に最新の内容へ更新し、保護者様の理解度向上にも努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		毎月異なる想定での訓練を実施し、災害に備えた意識付けを行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時に服薬、予防接種、アレルギー、既往症等の情報を詳細に把握しています。	健康診断の結果や服薬の変更を速やかに反映させるため、保護者様への確認を定期的に行っていきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギー用のおやつを別管理するなど誤食防止を徹底しています。	情報共有の漏れがないよう、マニュアルの再確認を継続的にを行います。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		施設内の安全点検を日々実施し、安全管理に基づいた適切な支援を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		契約時等に安全計画の内容を共有し、保護者様との連携を図っています。	計画の内容を改めて発信し、より安心感を持って頂けるよう努めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事例を蓄積し、LINEWORKSや会議で即座に共有して再発防止策を検討しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修の実施やセルフチェックを通じ、適切な対応を徹底しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束廃止指針に基づき、原則行わない方針を周知し、やむを得ない場合の対応を整理しています。	拘束を必要としないための環境設定（構造化・クールダウン場所の確保）を優先します。	